

病棟の概要

診療科：循環器科、内分泌代謝内科、消化器内科・眼科

病床数：58 床

主な疾患

循環器科：狭心症、不安定狭心症、急性心筋梗塞、心不全、完全房室ブロック

閉塞性動脈硬化症、肺高血圧症、各種不整脈、心臓弁膜症

内分泌代謝科：糖尿病、各種ホルモン異常、肺炎、CKD

消化器内科：悪性腫瘍（がん）・胃、胆嚢・胆管、肝臓、膵臓、大腸、食道静脈瘤

慢性肝炎、急性膵炎、胆石・胆のう炎、消化管出血、大腸憩室炎、胃潰瘍、

眼科：白内障、緑内障、黄斑前膜、網膜剥離

病棟の特徴

1) 循環器内科

心臓カテーテル検査のみだけでなく、経皮的冠動脈インターベンション、末梢動脈疾患カテーテル治療などの治療を行っています。検査・治療前後の看護は専門性が高く必要とされる知識は幅広くなります。新しい技術や介入方法について循環器チームを中心とし循環器疾患の理解を深めるため医師による勉強会を開催、BLS、ICLS 資格の研修に積極的に参加、心臓リハビリテーション指導士と共に患者指導による継続看護を心がけています。

2) 内分泌代謝内科

教育入院、強化療法などを主とし、医師・糖尿病療養指導士・理学療法士、栄養士、薬剤師を中心とした糖尿病カンファレンスを開催し、退院後も継続して実践できる生活指導、治療の副作用時の対処方法を指導しています。

3) 消化器内科

内視鏡検査および治療、主に上下部内視鏡、ERCP、ERBD、PTCD 等を行っています。また、がん患者に対し、化学療法などの治療も行われています。消化器チームを中心とし医師による疾患や治療・検査について、また看護師による看護介入・観察ポイントについて勉強会を定期的で開催しています。また、週 1 回患者カンファレンスを開催し治療方針、看護介入方法の情報共有を行っています。

教育体制

6 階病棟は急性期治療における看護から終末期看護に至るまで幅広い看護を実践しています。複合的な疾患の成り立ちのため幅広い知識や技術が必要になりますが、毎日様々な疾患と向き合い、必要な看護を考え実践することで多くの経験ができます。

